



## 『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第49号(2009年6月12日)

### 「海外での売上を伸ばす新・国際優良企業」

6月4日付けの日本経済新聞によると上場企業が2009年3月期に稼いだ営業利益のうちアジア地域の比率が過去最高になる一方で、下期に限れば日米欧は赤字になったとのこと。要因としては世界同時不況の中でアジア地域に関しては新興国を中心にプラスの経済成長を維持している国が多く、個人消費なども堅調に推移しているということがあり考えられます。

大手センサー企業の一社でアジアを中心とした海外での売上を伸ばしている企業を例にしてみました。同社の2009年3月期の連結決算を見てみますと、売上高は17.6%の減収、営業利益は28.3%の減益と大きく落ち込みを見せましたが、これは同社は売上の約7割を国内市場で計上しており、国内企業の設備投資の減少が大きく影響したと考えられます。

一方で海外部門に関して、売上高は12.1%の減収と減少はしているものの、国内と比べると減少幅は小さくなっていることが見てとれます。また同社の決算短信を見てみますと、従来海外の売上高に関しては、北米・中南米以外の地域については一括して「その他」として記載されておりましたが、同社におけるアジアの重要性が増したと考えられるため、前期決算からアジア地域の売上高を区分して表示されるようになりました。

アジア地域の売上高の区分情報は開示を始めた直後であるため、過去との比較はできないものの、アジア地域の売上が占める割合は全体の10.4%を占めております。

同社は従来から高い利益率を上げており、前期においても44.4%という高い営業利益率を維持しています。また同社の主力商品である工業用センサーは、比較的単価も安く、更新頻度も早いいため、景気が回復すれば、早期の販売回復が見込みやすい分野でもあります。

まだまだ予断を許しませんが、世界各国で景気の底打ちを示す経済統計が出てきており、順調に世界経済が回復に向かえば、同社の売上・利益の回復も見込めると考えられます。さらに、今後成長が見込まれるアジア地域においても地盤を固めつつあり、今後の発展に期待が持てると考えられます。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。また、上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。